

ため池データを共有化「ため池デジタルプラットフォーム」

研究のポイント

- 全国のため池の写真、日常点検結果、監視カメラの画像、水位データなど各種データを格納し閲覧できる「ため池デジタルプラットフォーム」(以下、ため池DP)を構築しました。ため池の管理状況を集約・共有することで、ため池の経年変化を把握することができ、地震や豪雨の災害時にため池の被災前の情報を迅速に把握することができます。

研究の背景

- ため池の管理情報の写真や管理状況は自治体ごとに管理されています。そのため、豪雨や地震によってため池が被災した場合、被災前の管理状況や堤体の様子を把握するためには、市町村、都道府県、国とメール等で情報を伝達する必要があり、時間を要することが課題でした。

ため池DPの特徴

- WEBブラウザを用いて利用することができます。
- 全国約15万箇所のため池が登録されています。
- ため池の写真登録や日常点検結果閲覧、監視カメラの画像、水位計のデータ閲覧、劣化状況調査結果登録、情報化施工支援機能の利用は、国や自治体のため池担当者を対象としています。
- ユーザーは、担当地域のため池の写真(図1)や監視カメラの画像、水位計の水位データ(図2)を登録することができます。
- 「ため池管理アプリ」を用いて実施した日常点検結果はため池DPに格納されます。
- 「ため池防災支援システム」と認証連携しており、「ため池防災支援システム」のユーザーアカウントを用いて「ため池DP」にアクセスすることができます。

期待される活用例

- ため池管理アプリを用いた日常点検報告の閲覧によるため池の経年的な劣化の確認
- 監視カメラの画像データや、水位データをため池DPに送信してため池の遠隔監視
- 災害時における被災ため池の被災前の管理状況、堤体形状の迅速な把握



図1 写真閲覧画面

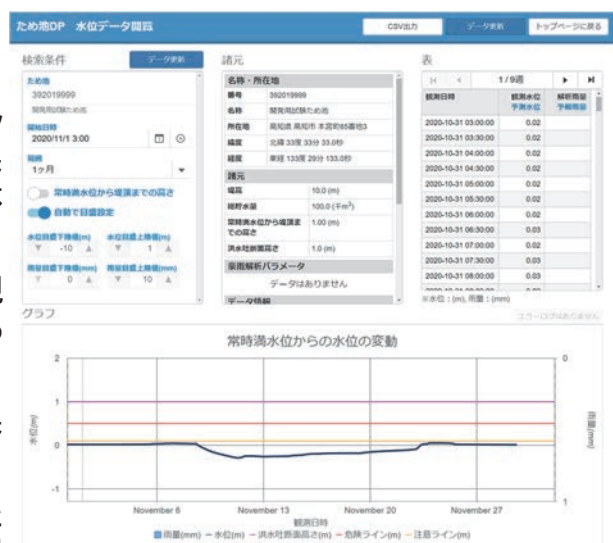


図2 水位データ閲覧画面

■ ため池DPの
操作マニュアル



■ ため池防災支援
システムの研究情報



■ ため池管理アプリの
研究情報

